

# ポーランド政治・経済・社会情勢

(2014年9月25日～10月1日)

平成 26 年(2014 年)10 月 3 日

H E A D L I N E S

## 政治

コパチ首相, 下院にて施政方針演説を実施  
 コモロフスキ大統領, 国連総会で演説  
 スヘティナ外相, シュタインマイヤー独外相と電話会談  
 コモロフスキ大統領, ポルトガルを訪問

## 経済

ポーランド宇宙局をグダンスクに設置  
 GDPの1%を研究開発費に支出  
 51%のポーランド人がユーロ導入に反対  
 2013年の年間成長率を1.7%に修正  
 ポーランドへの不法移民が増加  
 2050年の人口は3千4百万人に減少  
 9月のPMIは49.5ポイントに上昇  
 自動車関連輸出は引き続き好調  
 シャープ・マニファクチャリング・ポーランド社が事業を譲渡  
 NGKセラミクス・ポルスカ社が10周年記念及び新工場開所式典を実施  
 KGHMのチリ銅鉱山が開山  
 PGNiG社は海外への事業展開を計画  
 PISMが原子力に関する調査報告書を発表

## 大使館からのお知らせ

教科書配布開始のお知らせ(平成26年度前期分)  
 大使館広報文化センターの開館時間について  
 東日本大震災義捐金受付について  
 文化行事・大使館関連行事

在ポーランド日本国大使館

ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000

[http://www.pl.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)

【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！  
 問合せ先大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍・国籍関係の届出について

政 治	政 治
-----	-----

**コパチ首相、下院にて施政方針演説を実施【1日】**  
 1日、コパチ首相は、下院にて新政権の施政方針演説を行った。同首相は、外交政策に関し、新政権がウクライナ情勢に対して現実的な政策を実施すること、EUのエネルギー対外依存の削減を目指すエネルギー同盟の構築を積極的に支持すること、気候変動問題に関するEU内の議論においてポーランド経済への追加的負担や消費者の負担増大をもたらす内容には同意しないことなどに言及した。安全保障に関しては、2016年から国防予算をGDP比2%

に増額する方針を表明した。ポーランドのユーロ導入については、導入のタイミングはユーロ圏の強化及びポーランド経済の安定という2つの基準が満たされた時にみえてくる旨述べた。コパチ首相は、この他、親家族政策、教育、インフラ整備等に関する具体的な公約を発表した。  
 同日夜、下院においてコパチ新政権に対する信任投票が行われ、賛成259票、反対183票、棄権7票で同政権は下院の信任を得た。

外 政	外 政
-----	-----

**コモロフスキ大統領、国連総会で演説【25日】**  
 9月25日、コモロフスキ大統領は、ニューヨークで開催中の第69回国連総会において一般討論演説を行った。同大統領は、演説の中で、国連安保理がウクライナ紛争等に対して非効率的であることを指摘し、ポーランドはメンバー数の拡大と共に効率性の向上させる形での安保理改革を支持する旨述べた。また、ウクライナ情勢に関し、クリミアの占領、ウクライナにおける攻撃、(ロシアによる)国連の基本的価値観の蹂躪は国際法違反であり、ロシア・ウクライナ紛争の背景にあるのは、かつての影響圏のロジック、強国が弱小国を一方向的に占領するロジックの回帰である旨述べた。

9月26日、スヘティナ外相は、シュタインマイヤー独外相と電話会談を行い、二国間協力及びEU関連議題につき意見交換した。両外相は、両国間の非常に緊密な協力関係に満足の内意を示すと共に、更なる関係強化に向けた意思を確認した。

**スヘティナ外相、シュタインマイヤー独外相と電話会談【26日】**

**コモロフスキ大統領、ポルトガルを訪問【29・30日】**  
 9月29・30日、コモロフスキ大統領は、第10回アライオロス・グループ会合(EU加盟国の中で行政権を有しない(又は行政権が弱い)元首による多国間非公式会合)に参加するためにポルトガルを訪問した。今次会合においては、エネルギー政策、経済におけるイノベーション、競争力の拡大等につき意見交換が行われた。

経 済	経 済
経済・財政政策	

**ポーランド宇宙局をグダンスクに設置【26日】**  
 ポーランド下院は、上院がグダンスク市にポーランド宇宙局(POLSA)を設置すべく修正した法案に署名した。下院関連委員会は以前に同局のワルシャワへの設置を勧告していたところ、政府機関の地方分散化の動きの一部と捉えられる。本法案の起案者達は、同局の設置により、ESA(欧州宇宙機関)の計画に参加しやすくなり、宇宙工学やR&Dの発展に資すると説明している。

**GDPの1%を研究開発費に支出【26日】**  
 コラルスカ=ポビンスカ科学高等教育大臣は、GDPの1%を研究開発費に支出し、2015年はこの額を更に10%引き上げ、2020年にはDGPの1.7%に到達させると発表した。現在のポーランドのR&D支出はEU平均であるGDPの2%よりはるかに少ない0.9%であり、特に民間部門の少なさが全体の30%と顕著になっている。

マクロ経済動向・統計
------------

**51%のポーランド人がユーロ導入に反対【25日】**  
 最新の市場調査では、51%がユーロ導入を良くないと回答し、16%が良い、23%がどちらとも言えないとし、10%が回答を控えた。ユーロ導入反対は前回6月の調査から2%増加し、64%が家計に悪い影響を与える、50%がポーランド経済全般に悪い影響を与えるとしているが、他方で45%が将来的にはユーロを導入すべきと回答している。

**2013年の年間成長率を1.7%に修正【29日】**  
 中央統計局(GUS)によれば、EUの新統計基準適用により2013年の年間成長率が以前に発表された1.6%から1.7%に上方修正された。新基準は脱税等の一部間経済活動分も勘定され、2012年の年間成長率は、反対に2.0%から1.8%に下方修正された。

**ポーランドへの不法移民が増加【29日】**

内務省は、2013年に国境警備が3,795人の不法移民を逮捕したと発表した。2012年の3,052人より16%増加しており、内訳はウクライナから1,444人、ロシア944人、ベラルーシ271人、グルジア186人となっている。犯罪組織によるものもあれば個人単独の場合もあり、目的も庇護を求める場合もあれば不法就労の場合もあり、更にポーランドが目的地の場合も経由地の場合もあり、シェンゲン協定の東方国境に位置することが大きな要因としている。

**2050年の人口は3千4百万人に減少【1日】**

中央統計局(GUS)は最新の人口統計予測を発表し、2050年にポーランドの人口は現在の3,850万人から3,395万人に減少すると発表した。特徴として都市部の人口減少が指摘され、地方では現在の

約1,500万人が維持されるのに対し、都市部では現在の約2,300万人から約1,800万人に大幅に減少するとしている。更に少子高齢化も急速に進み、現在4歳以下が200万人、100歳以上が4千人である人口構成は、2050年には4歳以下が130万人、100歳以上が6万人になると予測している。

**9月のPMIは49.5ポイントに上昇【1日】**

9月の購買担当者景況指数(PMI)は、8月の49.0ポイントから49.5ポイントへと6カ月ぶりに上昇し、標準値の50.0ポイントに回帰しつつある。2013年5月より製造業が全般的に不振であり、過去4カ月間新規受注も減少しているものの、そのペースは緩やかで、2013年8月からは雇用が拡大していることが要因と考えられる。

**ポーランド産業動向**

**自動車関連輸出は引き続き好調【26日】**

AutomotiveSuppliers.plによれば、6月の自動車関連輸出は16.6億ユーロで、これは前年同月よりも多く、2014年1月以降2番目の大きさとなった。これらは、EU加盟国向け輸出が堅調なこと(3.59%増)と他の市場向けが大きく伸びたこと(14.97%増)によるものである。輸出先としては、ドイツ向けが最も大きく、7月末時点の割合は28.45%となっており、次いでイタリア、英国となっている。上位10カ国のうち唯一ロシアのみが減少している(41%減)。なお、自動車部品・付属品の輸出は約7000万ユーロ(14.48%増)であり、自動車関連輸出に占める割合は42.16%となっている。

き同工場で生産される。

**NGKセラミクス・ポルスカ社が10周年記念及び新工場開所式典を実施【30日】**

9月30日、NGKセラミクス・ポルスカ社の操業10周年及びLSH(ラージ・サイズ・ハニセラム)工場開所記念式典がグリヴィツェ市で行われた。同式典には、来賓として山中駐ポーランド大使、ピエホチンスキ副首相兼経済大臣他関係者が多数出席し、来賓からは、同社のポーランド経済への貢献に対する感謝が述べられた。

**シャープ・マニファクチャリング・ポーランド社が事業を譲渡【26日】**

シャープは、同社のポーランドでの生産拠点であるシャープ・マニファクチャリング・ポーランド社の事業を外国企業に譲渡することを発表した。液晶テレビ事業については、スロバキアのUMC社に移管される。事業譲渡は今年末までに完了する予定であり、また、シャープブランドについては、引き続

**KGHMのチリ銅鉱山が開山【1日】**

10月1日、KGHMが手がけるチリ・シエラゴルダ鉱山の開山式が行われた。40億ドル規模の同鉱山プロジェクトは、ポーランドにとって最大の海外への投資案件である。KGHMのヴィルスCEOは、同鉱山では、年間22万トンの銅、6.4万オンスの金と2500万ポンドのモリブデンを生産すると話している。また、同社は、プロジェクトによる生産コストの削減効果にも期待している。

**エネルギー・環境**

**PGNiG社は海外への事業展開を計画【26日】**

PGNiG社は事業を海外に展開することを計画している。同社によれば、米国、カナダ、クロアチア及びルーマニアといった市場に関心があり、すでに権益獲得に向けオファーを出しているという。さらに、ノルウェーでの権益拡大にも関心があるという。

では、原子力計画はポーランドにとって戦略的に重要であり、国際的地位やエネルギー源のバランスの向上に加え、EUの定める温室効果ガス削減目標達成にも貢献するものとしている。計画の推進には世論の支持が必要であるが、PISMの調査によれば、64%の支持はあるものの、原子力に関する知識はまだ不足しているという。そのため、計画遂行に向け世論をリードできる政治的レベルの高い、力のある人材が必要だと指摘している。

**PISMが原子力に関する調査報告書を発表【30日】**

ポーランド国際問題研究所(PISM)は、ポーランドの原子力計画に関する報告書を発表した。同報告書

## 大使館からのお知らせ

**教科書配布開始のお知らせ(平成26年度前期分)**

現在、当館ホームページ上(<http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/documents/kyoukasho26.pdf>)にて、平成26年度前期分の教科書配布をご案内しております。対象年齢のお子様がいいらっしゃる場合には無料で教科書を配布しております。受け取りを希望される場合には、その受取方法等をご確認いただければ幸いです。

**大使館広報文化センターの開館時間について**

月曜日 9:00 - 19:00 火曜～金曜日 9:00 - 17:00

当センターでは、日本関連行事や各種展示のほか、マンガコーナーを含む書籍の閲覧、本・CD・DVD等の貸出しを行っています。

イベント情報: <https://www.facebook.com/JapanEmb.Poland>

問合せ先: 在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話: 22 584 73 00, Eメール: info-cul@wr.mofa.go.jp, 住所: Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

**東日本大震災義捐金受付について**

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成27年3月31日(火)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

[http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin\\_j.htm](http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin_j.htm)

## 文化行事・大使館関連行事

**【予定】ワールド・ミュージック・デイズ ヴロツワフ 2014 【10月3日(金)～12日(日)】**

ヴロツワフ市にて、ISCM World Music Days 2014 主催による『ワールド・ミュージック・デイズ ヴロツワフ 2014』が開催されます。作曲家の板津昇龍氏、朴守賢氏、蒲池愛氏、徳永崇氏等の演奏が予定されています。

開催場所: <http://worldmusicdays2014.pl/program/miejsca/?lang=en>

詳細: <http://worldmusicdays2014.pl/?lang=en>

**【予定】花崎杜季女地唄舞公演【10月7日(火)】**

ワルシャワにて、ヴィラヌフ宮殿博物館主催による日本文化紹介事業「日本の10月」のプログラムの一環で『花崎杜季女地唄舞公演』が開催されます。

開催場所: ワルシャワ, ヴィラヌフ宮殿博物館, ul. Stanisława Kostki Potockiego 10/16

詳細: [http://www.wilanow-palac.pl/japonski\\_pazdziernik\\_w\\_palacu\\_w\\_wilanowie.html](http://www.wilanow-palac.pl/japonski_pazdziernik_w_palacu_w_wilanowie.html)

**【予定】ブロッコリー消費学会【10月7日(火)～8日(水)】**

セロツク市にて、サカタのタネ主催による『ブロッコリー消費学会』が開催されます。ブロッコリーのプロモーションをテーマとした会議が予定されています。

開催場所: セロツク, Hotel NARVIL Conference & Spa, ul. Czesława Miłosza 14A

詳細: <http://broccoli-conference.com/en/>

**【予定】歴史家入江昭氏による講演会【10月10日(金)16:00～】**

国際交流基金及びポーランド科学アカデミー主催にて、ハーバード大学名誉教授・歴史家入江昭氏による講演会「A Historian Looks at the Contemporary World」が開催されます。講演は英語で行われます。入場無料。

開催場所: ポーランド科学アカデミー the Staszic Palace, Lustrzana ホール

住所: ul. Nowy Świat 72, Warszawa

詳細: <https://www.facebook.com/JapanEmb.Poland#!/events/524661744345214/>

**【予定】ポーランド松涛館空手選手権【10月11日(土)】**

スタルガルト・シュチェチンスキ市にて、スタルガルト空手協会「SHOBU-KAN」主催による『ポーランド松涛館空手選手権』が開催されます。

開催場所: スタルガルト・シュチェチンスキ市, Hala Sportowa OSiR ul. Pierwszej Brygady

詳細: <http://www.shobu-kan.stargard.pl/strona/>

**【予定】第4回国際ヴロツワフジュニア・青年柔道選手権【10月11日(土)～12日(日)】**

オレシニツァ市にて、ドルノシロンスク柔道協会主催による『第4回国際ヴロツワフ・青少年柔道選手権』が開催されます。

開催場所：オレシニツァ市，ul. Jana Kochanowskiego 2

詳細：[http://www.dzjudo.org/akt.php?id=845&nr\\_strony=1](http://www.dzjudo.org/akt.php?id=845&nr_strony=1)

**【予定】西山英峻先生記念チャンピオンシップ2014【10月11日(土)】**

ヴロツワフ市にて、伝統空手クラブ「コブ」主催による『西山英峻先生記念チャンピオンシップ2014』が開催されます。

開催場所：ヴロツワフ市，ul. Paderewskiego 35

詳細：<http://kobu.pl/>

**【予定】第3回国際青少年柔道選手権【10月12日(日)】**

ビェルスコ・ビャワ市にて、ポドベスキジェ・スポーツ協会「ヤノシク」主催による『第3回国際青少年柔道選手権大会』が開催されます。

開催場所：ビェルスコ・ビャワ市，ul. Karbowa 26

詳細：<http://www.judocup.com/>

**【予定】私の目で見たポーランドの都市【10月～12月】**

ヴロツワフ市にて、ナイーブ・民族アートギャラリー主催による絵画展『私の目で見たポーランドの都市』が開催されます。阿山真也氏による作品が展示されます。

開催場所：ヴロツワフ市，ul. Kielbasnicza 31

**【予定】雅楽演奏【10月16日(木)・18日(土)】**

ポズナン及びワルシャワにて、『「いちひめ雅楽会」の雅楽演奏』が開催されます。

<開催場所>

ポズナン：10月16日(木) 18時，アダム・ミツキエヴィチ大学ホール，ul. Wieniawskiego 1

ワルシャワ：10月18日(土) 18時，国立フィルハーモニー，ul. Jasna 5

詳細：<http://www.filharmonia.poznan.pl>

<http://filharmonia.pl/strona-glowna/en/>

**【予定】現代日本破体書道展【10月17日(金)～11月2日(日)】**

トルン市にて、トルン旧市庁舎博物館主催による東洋書道芸術学会の破体書道の展示会『現代日本破体書道展』が開催されます。

開催場所：トルン市，Kamienica pod Gwiazda, ul. Rynek Staromiejski 35

詳細：<http://muzeum.torun.pl/język/index/lang/en.html>

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

**皆様からの情報提供をお待ちしています**

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。)

**【お問い合わせ・配信登録】**

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト([http://www.pl.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm))も併せて御覧ください。

在ポーランド日本国大使館 [news@mail@wr.mofa.go.jp](mailto:news@mail@wr.mofa.go.jp) (ご連絡は電子メールでお願いします。)